

# 高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会会報  
編集人 田村佐起三

〒六〇四 八〇三三  
京都市中京区蛸薬師通河原町東入  
電話 (〇七五) 二五三・〇七〇七

## 『揺れる情(こころ)』通信③④

稲荷山武田病院院長 土屋宜之/元京都医療センター外科部長  
現実主義者で俗人であり、松坂の人々の生活の中へ素直で率直な情(こころ)を持って自ら進んで埋没していった宣長さんは、日々学者としての活動を怠ることなく、町医者として住民を済民する医療の中へ踏み込んでいきました。

宣長さんが診ている病氣と現代の病氣に大差はありません。しかし医学は進歩してきました。三百年前の松坂の人々の、宣長さんの目の前で苦しんでいる疾患は、現代よりも治りにくかったと思います。それだけ緩和医療の占める割合は大きかったでしょう。緩和ケア医が体験する苦しみは、宣長さんの方が私たちよりも多く味わっていたと思います。ここに宣長さんへの連帯感・共感が強く深く感じられるのです。揺れる情の中で、もがき苦しんでいる宣長さんと同じ情を持つことができるのです。宣長さんの情と私の情が一体化するのです。宣長さんとの対話が、今、始まりました。

## 京都国立博物館

4月18日～6月14日

### 《特別展 北野天神》

京都の北西、天門の地にある北野天満宮は菅原道真を祭神としてまつる御社です。令和9年に道真薨去から1125年目の式年大祭「半萬燈祭」が執り行われることを機に、京都国立博物館では北野天満宮に伝わる国宝・重要文化財17件を中心とした全国の天神信仰ゆかりの品々を一挙公開する特別展を開催します。史上初となる国宝「北野天神縁起絵巻(承久本)」全巻全場面公開の他、多くの北野天神縁起絵巻を展覧し説話上の北野天神誕生の場面をお届けします。又、当博物館と北野文化研究所の調査によって発見された作品や、日本各地の天満宮・天神社、社寺に伝わる名品の数々から、これまであまり語られてこなかった天神信仰の多様な側面と、日本文化の中で果たしてきた重要な役割を紐解きます。

## 《地獄は怖くありません》常楽臺住職 今小路覚真

目に見えないもの、音の聞こえないもの、手で触ることのできないもの、等を自分のこととして信ずることが困難なものと、今まで不思議として受け取られていた事柄の多くが判明されてきました。

しかしこれからは先になっても、こうした不思議な事柄は残り続けていくでしょう。わたしの体の構造そのものにも、まして心の中の動きなど、その不思議を追いかけても具体的な答えはなかなか困難です。

iPS細胞を使った薬が実用化されるようになり、不治の病とされていたパーキンソン病等に一筋の光明が見られるようになりました。不思議の一つが解かれました。

「地獄が怖い」という言葉が、根深く人々の心を占めていることが旧統一教会の事件で表面化しています。「地獄なんて怖くないよ」と説いているのが仏教です。機会があればそうした話に出会ってみられるのはいいかたでしょう。

## 《展示会や試飲会》

イタシヨク 福村直

世の中には何万種類ものワインが毎年生産され、この中から消費者はどれを選んで良いのか好みの物を見つけてるのは至難の業です。そこで宣伝PR活動としてワインの生産地ではもちろん、日本でも様々なワインの展示会や試飲会が行われています。

消費者の手に渡るまでに大きく分けて3回も行われ、最初はワイナリーが大手販売業者や輸出業者を探すために生産地での小規模な試飲会から、世界的に大きな展示会等に出展をします。その次は仕入れた輸入業者がレストランや小売店向けの試飲会を行います。そして最後に一般消費者向けに百貨店やワイン小売店で試飲会が行われます。本や広告では文字でしか情報は伝えられませんが、実際の試飲会では商品に触れもらったり大切な機会なのです。ワインは嗜好品で味や価格に大きな違いがあり、実際に飲んでみるまで納得できない場合も多いからです。

## 健康レシピ

栄養士 國松美也子

### 《4月レシピ》

春キャベツの梅かつお和え

材料：春キャベツ1/2個、ささみ2本、梅干し大2個、かつお節適量、麵つゆ大さじ2、3

①キャベツは細切りにして、サツとゆがくか、レンジで3分ほど温め、冷まして絞る！

②ささみは筋を取り、お皿に並べてお酒を大さじ1ほどかけてラップを軽くして、レンジで中に火が通るぐらい(約3分～5分)加熱してほぐしておく。

③ボールに叩いて潰した梅干しを麵つゆでのばす。

④キャベツ、ささみが冷めたら、ボールに入れて梅干し、麵つゆとかつお節を加えて混ぜる。

⑤冷蔵庫で冷やして味を馴染ませて完成。

★キャベツのビタミンCは熱に弱く、水に流れやすいので、ゆがく時は短時間でサツとゆがく！

## 《昏るに、日はのこりて》

田村佐起三

『木屋町の英雄！／たん熊から京味へ』

突然、木屋町高瀬川筋がざわめき凍りつき、酒屋、八百屋、魚屋さんが騒然としました。

たん熊花板の西健一郎(1937～2019)さんが板場の人たち全員高島屋の屋上にこもり大將に抗議しました。大將は口入屋(箱)から板場の要員を確保され、お店を開けられました。そして西さんの労働交渉は結果失敗に終わりました。

昭和42(1967)年、西さんは東京新橋にて元常連客の推しで、裏千家第十五代千玄室家元命名の「京味」を開店されました。

そのお店は日本にとどまらず、世界の要人から愛され、結果西さんは世界に日本料理を知らしめた第一人者でもありました。

私は西さん率いる草野球チームに因与したご縁で、知己を戴きました。

私には西さん率いる草野球チームに因与したご縁で、知己を戴きました。